

継続的ケア改善ツールとしてのモニタリング活用と 自立支援型介護の展開を目指して

～観察ポイントの可視化による職員の気づきの変化～

池淵美香

毎月のモニタリング実施

- こうほうえんの強み
- 一方で、

観察視点及び評価・改善の指標

自立支援型介護の
指標で評価

可視化

⇒ 観察内容・評価内容 **の標準化**

継続的ケア改善ツールとしての機能

を発揮させると共に自立支援型介護の展開

研究方法

- **研究期間**:平成25年1月～7月
- **研究対象と方法**:
自身がケアマネを務めるチームから
 - 1)利用者10名について、
取り組み前後での状態変化を比較検証
 - 2)1名のモニタリング内容について、
取り組み前後1年間の変化を検証
 - 3)チームノートに記載された
個別ケアに関する改善提案件数の変化を検証

取り組み

＜自立支援型介護の指標を共有＞

⇒基本ケア4項目（水分・食事・排泄・活動）

1) 平成25年2月、水分の必要性を伝え、

1日1500ccを目標に掲げた取り組みを開始。

2) 平成25年3月、基本ケア4項目の現状と改善策

をまとめ、目標値と根拠を示した資料を共有。

＜モニタリング観察視点の可視化＞

平成25年3月、基本ケア4項目の目標値を観察視点に盛り込み、記入例を作成。同年4月1日より運用。

モニタリング表記入例と各項目における視点（抜粋）

	記入日	年 月 日	各項目におけるモニタリングの視点 ※“1ヶ月間”とはモニタリング前日からさかのぼった1ヶ月間を示す
	【 記入例 】		
水分補給	<input checked="" type="checkbox"/>	平均1255cc。飲み物を残されていても牛乳を提供すると飲まれる事が度々あった。他の水分が進まない時にはコップを入れ替えて牛乳を提供していく。水分のムセは月に2,3回あり。	<p>①水分形態に変更があれば記入</p> <p>②1ヶ月間の平均水分摂取量(合計して30で割り、厳密な数字を出す)</p> <p>③水分量アップ(基本目標1500cc)のための気付き・工夫</p> <p>④心不全の既往があれば記入(①④の月のみの記入でよい)</p>
総合評価		硬便・皮膚の乾燥・傾眠・夕方からの認知症周辺症状など脱水による悪影響が各処にみられているため、水分量の増加(1500cc)を次月の目標とする。④	<p>①各項目を記入して見えてきた課題の中から最優先で取り組むことを具体的に記入(数値化できるものは目標数値を記入)。 ※「しっかり観察」「できるだけ飲んでもらう」といった表現は×</p>
ケアマネジャーコメント		評価確認。ムセが改善傾向にありますので、水分量増量と共に、食事形態のレベルアップについてもSTIに相談していきましょう。また、立位が安定してきましたので、歩行訓練の実施に向け、PT評価を依頼してください。プラン継続。池淵	<p>①「自立支援型介護過程」の用紙を基に、各項目を“基準値および状態像”に近づける視点を持って、総合評価に記入された最優先取り組み課題の視点がずれていないかを確認。ずれていれば正す。モニタリングに改善点として挙がっていない項目は補足する。 ※左の記入例ではこの事例でどこに着目するか分かるように、食事形態アップと歩行訓練の2項目をコメントで挙げていますが、課題全てを書く必要はありません。緊急性や優先度の高いものの記入をお願いします。</p>

※これは①④の月の記入例です。他の月は必ずしも全ての項目を埋める必要はありませんが、評価の視点の中で変化のあった項目・課題に該当する項目および色字項目は毎月の記入をお願いします。

結果① 自立支援のアセスメント項目における 改善効果(平成25年1月と同年7月比較)

	A 様	B 様	C 様	D 様	E 様	F 様	G 様	H 様	I 様	J 様
水分量	増加 1500cc以上	増加 1500cc以上	増加 1500cc以上	増加 1500cc以上	増加 1500cc以上	増加	増加 1500cc以上	増加	増加 1500cc以上	増加 1500cc以上
食事			自力摂取率・ 食事量増加					欠食減少 食事量増加	主食: 粥→軟飯	
活動量	離床時間 増加(9→11)		離床時間 増加(6→8)				離床時間 増加(2.5→6)	離床時間 増加(5→6)		
生活リズム								リズム安定化		
意識レベル	向上 (傾眠減少)		向上 (傾眠減少)			向上 (発語増加)	向上 (傾眠減少)	向上 (傾眠減少)		
屋内歩行	歩行器歩行 開始						歩行器歩行 開始			
排便	5/19～ カマグ中止	7/4～ カマグ中止	6/28～ プルセ中止				下剤使用 頻度減少		5/2～ カマグ中止	
日中排尿	失禁減少								以前より尿意 訴え増加	
夜間排尿										
他の要介助ADL			特浴→個浴							
食事の場・椅子	足底が着く 高さの車イス へ変更		車イスから イスへの 座り替えへ 変更	反り返り減少						
足底										

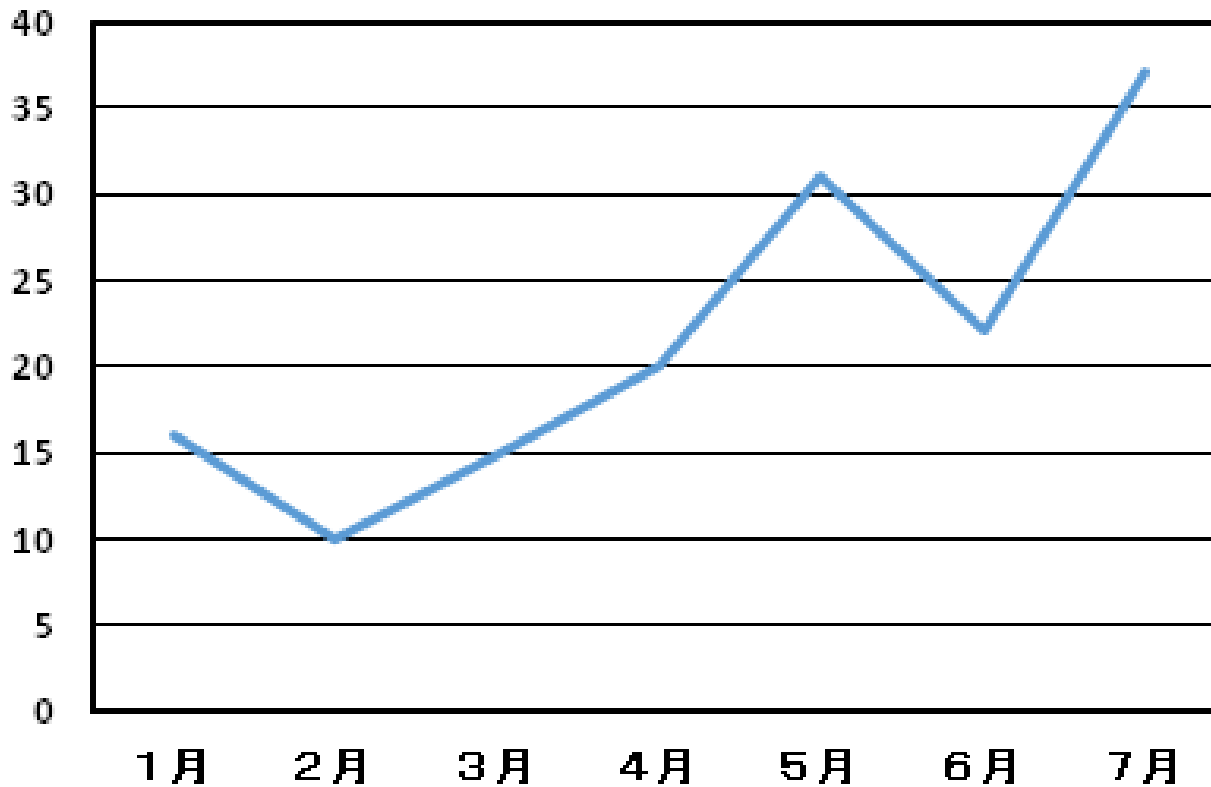
※斜線枠は1月の段階ですでに課題がない状態。未記入枠は変化なし。

結果② モニタリングにおける改善項目の変化 (平成24年8月～翌1月、平成25年2月～7月)

取り組み前		取り組み後	
8月	活動量	2月	活動量
9月		3月	水分量
10月	皮膚状態	4月	排泄ケア2件
11月		5月	排泄ケア、活動量
12月	衣類	6月	水分量
1月		7月	食事形態、水分量、楽しみ

- 取り組み後は繰り返し改善のアプローチがなされている

結果③ チームノートにおける個別ケア改善 提案件数の推移(平成25年1月～同7月)



● 改善提案件数は増加傾向を示した

考察

- 3つの結果から、継続的ケア改善ツールとして、モニタリングが一定の機能を果たしたと言える。
- 導入時に自立支援型介護の考え方を共有し、他職種を含むチーム全体で取り組んだことにより、特定の利用者の改善に留まらず、多くの利用者の状態改善に繋がったと考える。
- モニタリングの質については、極端な個人差はなくなりつつあるが、モニタリングに対する意識については依然として個人差が見られている。